

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成27年10月1日(2015.10.1)

【公開番号】特開2015-34647(P2015-34647A)

【公開日】平成27年2月19日(2015.2.19)

【年通号数】公開・登録公報2015-011

【出願番号】特願2013-164422(P2013-164422)

【国際特許分類】

F 25 C 5/18 (2006.01)

F 25 C 1/10 (2006.01)

【F I】

F 25 C 5/18 401

F 25 C 1/10 301A

F 25 C 5/18 302B

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月13日(2015.8.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明に係る冷蔵庫は、冷蔵庫の製氷室に引出し自在に設けられた貯氷箱と、貯氷箱の上方にて、後方端部が駆動装置に接続され、離氷時には駆動装置によって上下反転させられながら揺られ、貯氷箱へ氷を供給する製氷皿とを備え、駆動装置の背面側に貯氷箱の上方を覆う氷脱落防止部が設けられているものである。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

冷蔵庫の製氷室に引出し自在に設けられた貯氷箱と、

前記貯氷箱の上方にて、後方端部が駆動装置に接続され、離氷時には前記駆動装置によって上下反転させられながら揺られ、前記貯氷箱へ氷を供給する製氷皿とを備え、

前記駆動装置の背面側に前記貯氷箱の上方を覆う氷脱落防止部が設けられていることを特徴とする冷蔵庫。

【請求項2】

前記製氷室の上部には、冷気の風路を有し、前記駆動装置を保持するとともに、前記製氷皿の前方端部を回動自在に支持する上板が設置されており、

製氷時には、前記上板の前記風路から前記製氷皿に冷気が供給されることを特徴とする請求項1記載の冷蔵庫。

【請求項3】

前記貯氷箱内部の氷の量を検知する氷検知レバーを備え、

前記駆動装置及び前記製氷皿は、前記貯氷箱の幅方向の一側側に配置され、前記氷検知レバーは前記貯氷箱の幅方向の他側側にて前記駆動装置に取り付けられており、

前記氷脱落防止部は、前記駆動装置の背面側から該駆動装置の前記氷検知レバーが取り

付けられている側の側面にかけて配置されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の冷蔵庫。

【請求項 4】

前記氷脱落防止部は、箱状に形成され、この箱状の内部が風路と接続されるとともに、前記氷検知レバーに対向する部位に、該氷検知レバーに向けて風を吹き出す穴が形成されていることを特徴とする請求項 3 記載の冷蔵庫。

【請求項 5】

前記氷脱落防止部と前記上板とは、連結風路部材を介して接続されており、該連結風路部材を境に、該連結風路部材を含む氷脱落防止部側と上板側とに分離構成されていることを特徴とする請求項 2 ~ 4 のいずれか一項に記載の冷蔵庫。